財団処理欄	04-12

留学・研究計画書

氏名	木村　春菜	留学機関名	慶熙大学校　韓国語教育大学院
留学先国名	大韓民国	留学期間　西暦 2005 年 3 月 ～ 2007 年 2 月	

研究テーマ（留学目的）

韓国語教育の為の類義語資料及び教材開発を目的とした基礎研究
―　動詞類義語の使用頻度と意味範疇に関する考察　―

研究テーマ（留学目的）の説明

韓国語の語彙は大きく分けて、音韻論的特徴、形態論的特徴、社会学的特徴の３つの特徴と、深く関連している。これは、語彙というものが独立して働きをもつものではなく、社会学的脈絡の中で、他の文法や語彙と結びいてこそ働きを持つからである。

現在まで韓国語教育の流れの中で、語彙教育は注目を浴びる分野ではなかった。大部分の語彙に関する研究が単純な基礎語彙の設定、学習段階による語彙難易度の分類に留まっているのが現状である。

特に韓国語では固有語と漢字語の類義語が発達しており、その差異を明確に教育しなければならない。

これに関連して、韓国語において二語彙以上の類義語を持ち、母語においてその意味が一語彙に集中する場合、言語間干渉・言語内干渉による誤用現象を起こしやすい。この現象は非漢字語圏学習者の場合において、著しく現れる傾向にある。

類義語教育の重要性は、類義語教育が言語教育の４大領域である、聴取・会話・読解・作文の全領域に関連性があることから証明される。しかしながら、現在まで、類義語の重要性については認識されて来なかった。

また、語彙教育の教授法の一つとして、類義語を利用した教授法が伝統的に広く行われており、現在でも使用されてはいる。だが、類義語を利用した語彙教育を助けるだけの基本的な資料は存在しなかった。

本研究は韓国語教育における類義語教育の重要性に着目し、韓国語学習の中期課程の基本語彙に属する 1500 語彙の中から、固有語と漢字語の類義語を持っている動詞を抽出し、その中から抽出基準を満たした上位 20 グループを選定し、各グループ内における「文内での使用環境」、「意味的相違度」、「意味的重複度」を明らかにすることを目的とする。

また、1500 語彙の中から、固有語と漢字語の類義語を所有している動詞を抽出際に、基準を４つの方法に分類し設定することにより、信憑性の確かな抽出の結果を出す。そして、コーパス分析に基づいた用例の作成によって、多様な用例を提示することで、学習者にとって理解度の高い教材の開発の基礎を築く。

なお、本研究は現在、韓国語語彙の教授に必要とされている体系的な類義語用例資料開発の基礎研究として進めて行く。将来的には、動詞だけではなく、名詞、形容詞にまで範囲をひろげた上で、類義語用例集及び、教材・辞典開発・編集までを目標とする。

本研究はあくまでも韓国語教育の観点から研究を行うので純粋言語学的な観点からの研究結果とは、相異する点がありえることをあらかじめことわっておく。